



＜IR説明会資料＞

KOBELCO
神戸製鋼グループ

2018年度 第3四半期決算及び業績見通しについて

2019年2月5日
株式会社 神戸製鋼所
常務執行役員
河原 一明





報告事項

1. 2018年度第3四半期決算
2. 2018年度業績見通し
3. 財務戦略
4. 参考情報



1. 2018年度第3四半期決算



ECO WAY

2018年度決算 第3四半期実績

(単位：億円)

	2017年度			2018年度			差異
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	対前年 ②-①
売上高	9,070	4,722	13,793	9,582	4,901	14,483	+ 690
営業損益	514	204	718	231	151	382	△335
経常損益	457	162	620	93	178	271	△348
(在庫評価影響を除く)	(412)	(137)	(550)	(68)	(143)	(211)	(△338)
特別損益	90	0	※ ¹ 91	※ ^{2,3} 363	※ ⁴ △36	327	+ 235
親会社株主に帰属する 四半期純損益	393	164	558	333	116	450	△107

※¹ 投資有価証券売却益 91億円※² 子会社化関連損益 48億円 (神鋼鋼線工業の子会社化)※³ 投資有価証券売却益 314億円 (神鋼不動産株式の75%を売却)※⁴ 災害による損失 △36億円 (台風20号・21号・24号、西日本豪雨、大阪北部地震等)



ECO WAY

第3四半期 セグメント別売上高

(単位：億円)

売上高	2017年度			2018年度			差異 ②－①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄鋼	3,544	1,842	5,387	3,595	1,994	5,589	+202
溶接	397	203	600	398	221	620	+19
アルミ・銅	1,743	865	2,609	1,813	905	2,718	+109
機械	705	402	1,108	842	373	1,216	+107
エンジニアリング	480	329	809	554	344	899	+89
建設機械	1,827	849	2,676	2,049	921	2,971	+294
電力	329	176	505	358	185	543	+37
その他	292	188	480	222	71	293	△187
調整額	△249	△136	△385	△252	△116	△ 369	+16
合計	9,070	4,722	13,793	9,582	4,901	14,483	+690



ECOWAY

第3四半期 セグメント別経常損益

(単位：億円)

経常損益	2017年度			2018年度			差異 対前年 ②－①
	上期実績	3Q実績	3Q累計 ①	上期実績	3Q実績	3Q累計 ②	
鉄鋼	184	14	199	△17	48	31	△167
溶接	25	13	39	9	14	23	△15
アルミ・銅	79	28	108	16	△6	10	△98
機械	△5	15	10	8	5	14	+3
エンジニアリング	17	32	49	10	16	27	△22
建設機械	114	43	158	135	90	226	+67
電力	33	13	46	△36	3	△ 32	△79
その他	17	17	35	8	8	17	△18
調整額	△9	△18	△27	△42	△2	△ 45	△17
合計	457	162	620	93	178	271	△348



ECO WAY

2. 2018年度業績見通し



ECO WAY

2018年度 業績見通し

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
売上高	18,811	9,582	10,718	20,300	9,582	10,318	19,900	+1,089	△400
営業損益	889	231	269	500	231	219	450	△439	△50
経常損益	711	93	157	250	93	157	250	△461	—
(在庫評価影響を除く)	(561)	(68)	(132)	(200)	(68)	(107)	(175)	(△386)	(△25)
特別損益	20	363	-	363	※1,2 363	※3 △36	327	+307	※3 △36
親会社株主に帰属する 当期純損益	631	333	17	350	333	17	350	△281	—

- ※1 子会社化関連損益 48億円（神鋼鋼線工業の子会社化）
 ※2 投資有価証券売却益 314億円（神鋼不動産株式の75%を売却）
 ※3 災害による損失 △36億円（台風20号・21号・24号、西日本豪雨、大阪北部地震等）



ECO WAY

2018年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売上高	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
鉄鋼	7,155	3,595	4,005	7,600	3,595	3,955	7,550	+395	△50
溶接	805	398	422	820	398	422	820	+15	—
アルミ・銅	3,495	1,813	1,937	3,750	1,813	1,837	3,650	+155	△100
機械	1,613	842	968	1,810	842	938	1,780	+167	△30
エンジニアリング	1,228	554	956	1,510	554	956	1,510	+282	—
建設機械	3,645	2,049	2,001	4,050	2,049	1,801	3,850	+205	△200
電力	721	358	402	760	358	412	770	+49	+10
その他	688	222	208	430	222	198	420	△268	△10
調整額	△543	△252	△178	△430	△252	△198	△450	+93	△20
合計	18,811	9,582	10,718	20,300	9,582	10,318	19,900	+1,089	△400



ECO WAY

2018年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異	
	実績 ①	上期	下期	年度 ②	上期	下期	年度 ③	対前年 ③-①	対前回 ③-②
鉄鋼	173	△17	47	30	△17	47	30	△143	—
溶接	49	9	21	30	9	21	30	△19	—
アルミ・銅	118	16	△36	△20	16	△56	△40	△158	△20
機械	23	8	17	25	8	17	25	+2	—
エンジニアリング	69	10	40	50	10	55	65	△4	+15
建設機械	219	135	105	240	135	105	240	+21	—
電力	79	△36	16	△20	△36	16	△20	△99	—
その他	54	8	37	45	8	32	40	△14	△5
調整額	△75	△42	△88	△130	△42	△78	△120	△45	+10
合計	711	93	157	250	93	157	250	△461	—



ECO WAY

配当について

■ 当期の配当について

継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。これに基づき、当期の期末配当につきましては、1株につき10円（年間20円）とすることを決議いたしました。

■ 配当性向

当面、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の**15%～25%**を目安としております。

■ 配当実績

	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度（予想）		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 （¥/株）	2.0	2.0	4.0	2.0	-	2.0	-	-	-	-	30.0	30.0	10.0	10.0	20.0
配当性向			16.8%			-			-			17.2%			

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。



ECOWAY

【鉄鋼】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
売上高	7,155	3,595	4,005	7,600	3,595	3,955	7,550	△50
経常損益	173	△17	47	30	△17	47	30	—
(内 在庫評価影響)	(90)	(5)	(25)	(30)	(5)	(50)	(55)	(+25)

2018年度の状況

- 加古川製鉄所への上工程集約などによる収益改善策は着実に遂行中。
- 鋼材の販売数量は、自動車向けを中心とした需要の堅調な推移から、前回想定並みを見込む。
- 主原料価格の上昇に伴うメタルスプレッドの悪化を織り込むものの、在庫評価影響の改善などを見込み、損益は前回見通しを据え置く。



ECOWAY

【鉄鋼】経常損益 増減要因

(単位：億円)

メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	+125
原料価格	△165
為替影響	+10

△30

△60

在庫評価
影響

総コスト
削減

+25

その他

△78

メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	+10
原料価格	△35
為替影響	△10

+10
総コスト
削減

その他
±0

30

△35

+25

在庫評価
影響

30

2017年度
(実績)

2018年度
(前回見通し)

2018年度
(今回見通し)

製鉄所上工程の集約

(収益改善効果 +150億円/年)

関連設備の立ち上げなど計画通り完了。17年11月に新体制に移行済み。

2017年度	+ 65 (実績)	+85
2018年度	+150 (見込)	

追加収益改善策

(5カ年累計 +300億円)

設備投資や生産現場レベルでのコスト削減、原料調達コスト削減により、順調に進捗。

16年度	+ 85 (実績)	+80
17年度累計	+180 (実績)	
18年度累計	+260 (見込)	
20年度累計	+300 (計画)	



ECOWAY

【鉄鋼】生産・販売状況

	2017年度 実績				2018年度 前回 年度見通し	2018年度		
	上期	3Q	下期	年度		上期実績	3Q実績	年度見通し
全国粗鋼(万t)	5,204	2,640	5,280	10,484	/	5,222	2,570	/
全国在庫水準(万t)	570	567	583	--		623	571	
薄板3品在庫水準(万t)	415	404	421	--		440	417	
国内自動車生産台数(万台)	467	248	501	968		463	177	

<当社>

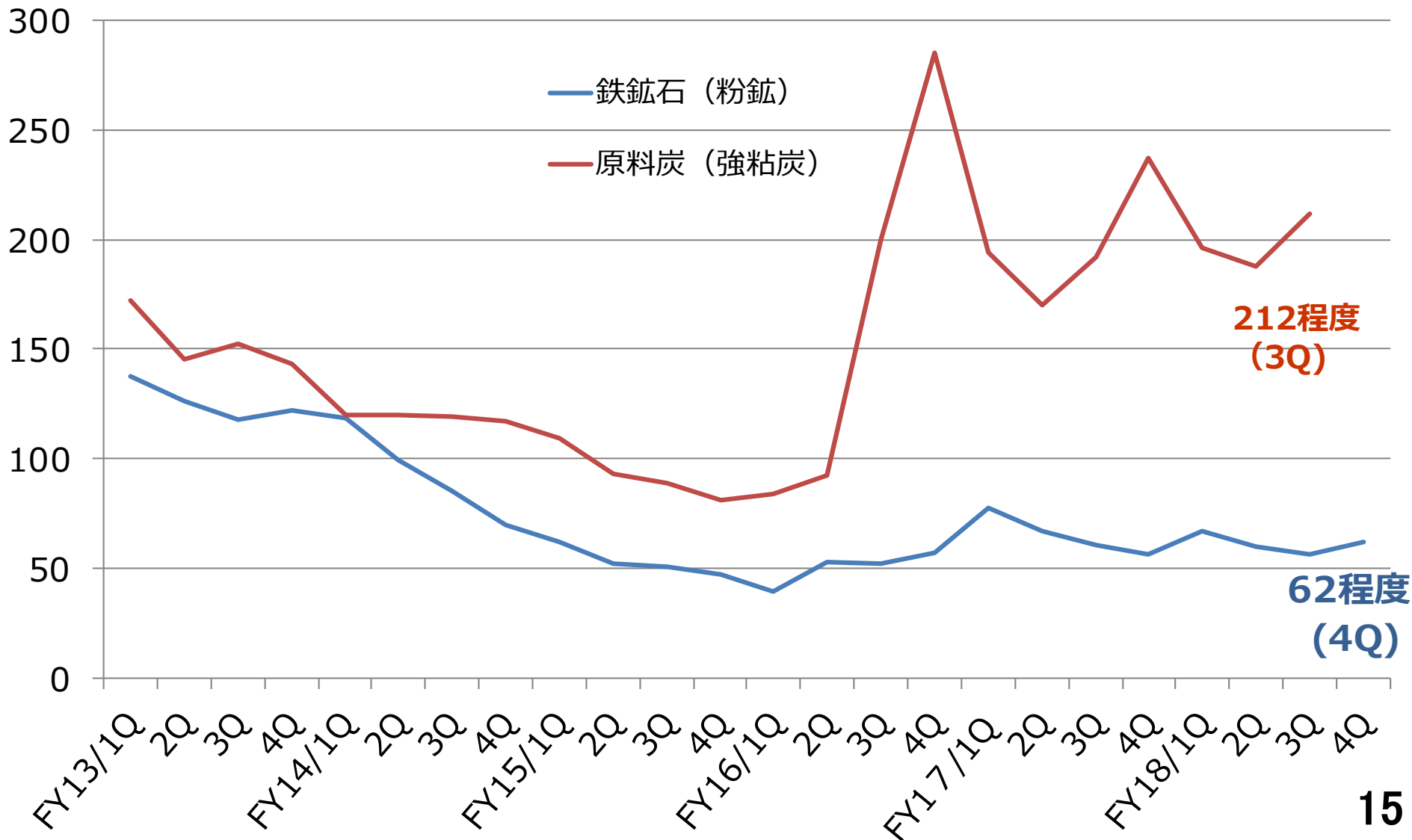
粗鋼生産(万t)	394	180	352	746	685程度	339	169	690程度
鋼材販売量(万t)	304	153	293	597	565程度	271	149	565程度
(内国内)	(223)	(108)	(212)	(435)		(203)	(113)	
(内海外)	(81)	(45)	(81)	(162)		(68)	(36)	
鋼材販売単価(千円/t)	81.5	81.5	81.5	81.5		85.2	87.4	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	26.4%	29.3%	28.0%	27.2%		25.7%	25.0%	



ECO WAY

【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

(単位：\$/トン)

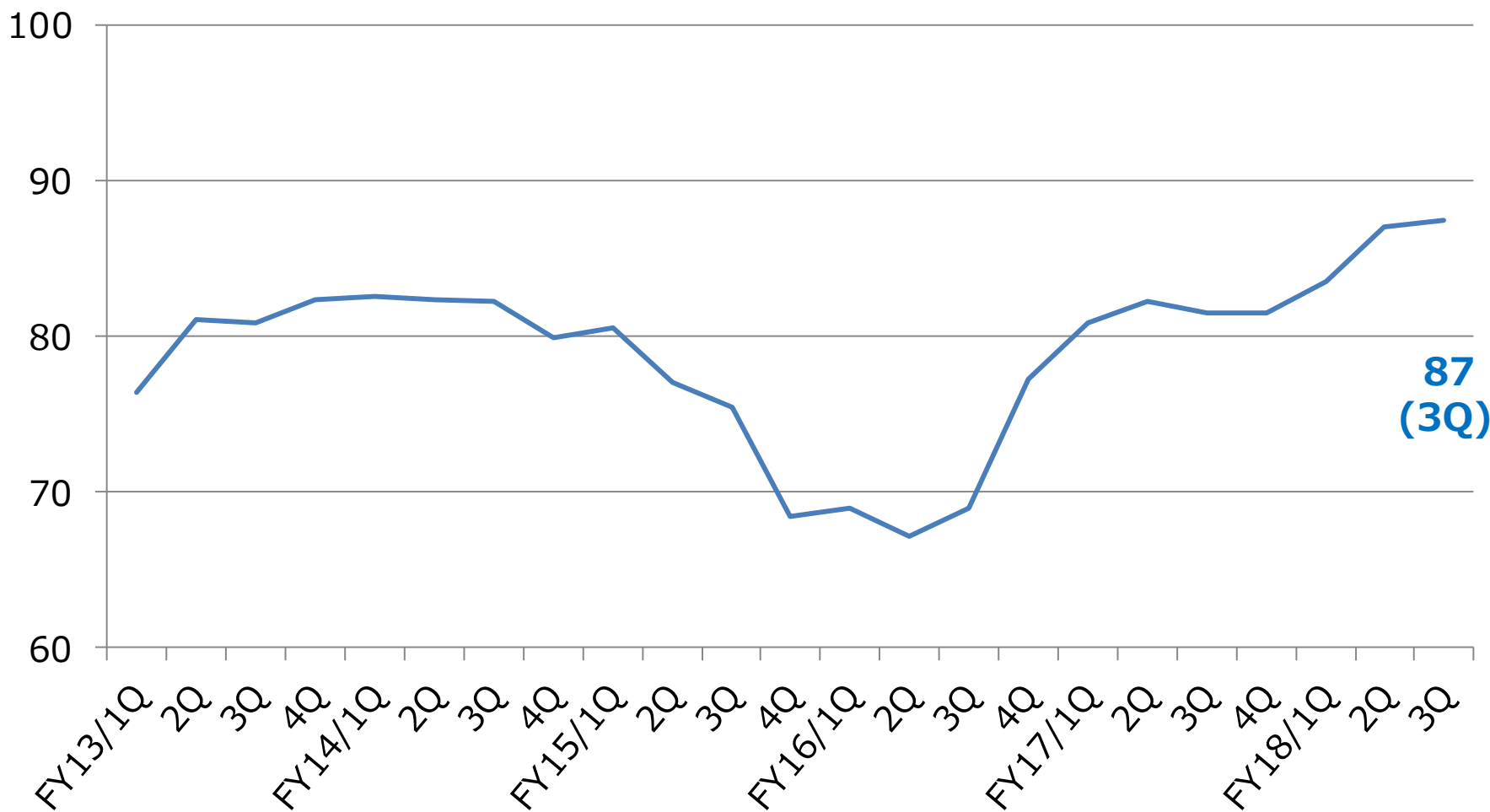




ECO WAY

【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)





ECO WAY

【溶接】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	805	398	422	820	398	422	820	—
経常損益	49	9	21	30	9	21	30	—

<当社の販売状況（溶接材料）>

(単位：千t)

	2017年度				2018年度	2018年度		
	上期	3Q	下期	年度	前回 年度見通し	上期実績	3Q実績	年度見通し
国内	65	32	63	128	295程度	60	34	295程度
海外	79	40	83	162		83	45	
合計	144	72	146	291		143	78	

2018年度の状況

- 溶接材料の需要環境及び販売数量は、前回想定並みを見込む。
- 溶接システムの国内建築鉄骨向け需要も堅調に推移していることなどから、損益においても、前回想定並みを見込む。



ECO WAY

【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	3,495	1,813	1,937	3,750	1,813	1,837	3,650	△100
経常損益	118	16	△36	△20	16	△56	△40	△20
(内 在庫評価影響)	(60)	(20)	(0)	(20)	(20)	(0)	(20)	(—)

＜当社の販売状況＞

(単位：千t)

	2017年度				2018年度	2018年度		
	上期	3Q	下期	年度	前回 年度見通し	上期実績	3Q実績	年度見通し
アルミ国内	153	67	132	285	270程度	137	65	267程度
圧延品輸出	40	20	38	78	80程度	41	19	80程度
銅圧延品	71	35	70	142	145程度	73	36	145程度

2018年度の状況

- アルミ圧延品の販売数量は、半導体製造装置向けなどのIT関連の需要減などから、前回見通しを下回るものと想定。
- また、製品の一部に対する不適切行為による影響等を織り込み、損益は前回比悪化を見込む。



ECO WAY

【機械】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	1,613	842	968	1,810	842	938	1,780	△30
経常損益	23	8	17	25	8	17	25	—
受注高	1,511	725	920程度	1,650程度	725	920程度	1,650程度	—

2018年度の状況

- 受注高は、中国における石油化学分野向け樹脂機械などの需要の堅調な推移により、前回想定並みを見込む。
- 圧縮機市場の厳しい競争環境は継続するものと想定されるが、損益は前回想定並みを見込む。



ECOWAY

【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	1,228	554	956	1,510	554	956	1,510	—
経常損益	69	10	40	50	10	55	65	+15
受注高	1,192	722	530程度	1,250程度	722	530程度	1,250程度	—

2018年度の状況

- 受注高は、廃棄物処理関連事業を中心とした需要の堅調な推移から、前回想定並みを見込む。
- 損益については、既受注案件のコストダウンや案件構成の変化、（株）IHI環境エンジニアリングの廃棄物処理施設関連事業の当社グループへの統合などから、前回は増益を見込む。



ECO WAY

【建設機械】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	3,645	2,049	2,001	4,050	2,049	1,801	3,850	△200
経常損益	219	135	105	240	135	105	240	—

2018年度の状況

- 油圧ショベルの販売台数は、中国や東南アジアでの競争激化により、前回想定を下回る見通し。
 - 一方、クレーン倒壊事故によるマイナス影響が前回想定を下回るものと見込まれることなどから損益は前回見通しを据え置く。
- (中国の油圧ショベル事業に関連した貸倒引当金の取り崩しについては前回織り込み通り第3四半期にて計上)



ECO WAY

【電力】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度（前回見通し）			2018年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	721	358	402	760	358	412	770	+10
経常損益	79	△36	16	△20	△36	16	△20	—

2018年度の状況

- 新規プロジェクトの資金調達に伴う一過性の費用を第2四半期に計上して以降、大きな変化は見込まれず、損益は前回想定を据え置く。
- 新規プロジェクト（神戸・真岡）は順調に進捗中。真岡発電所1号機は、2019年後半に運転開始予定。



3. 財務戦略



ECO WAY

【財務戦略】

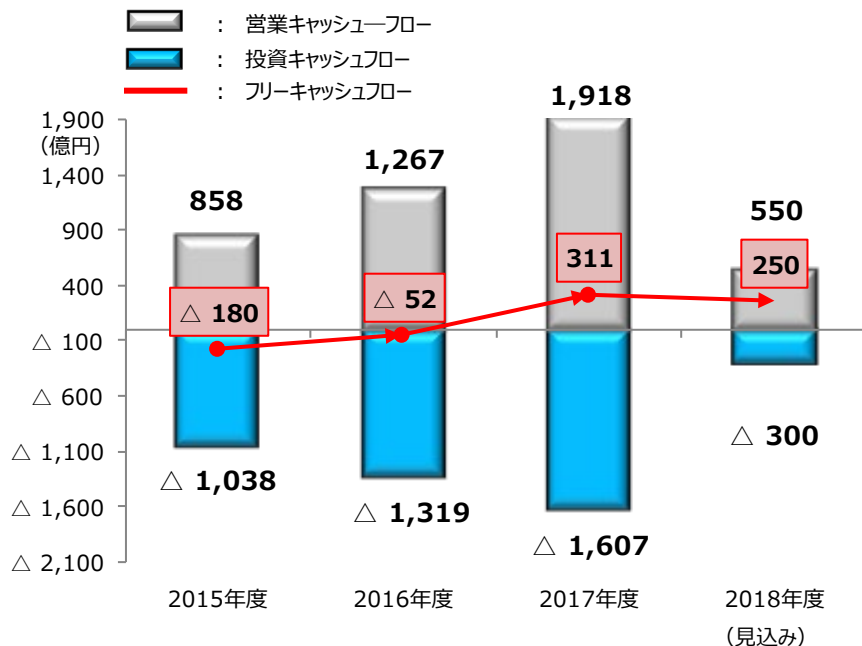
基本方針

- 素材系・機械系事業の成長に向けた大型戦略投資、及び事業基盤を支える定常投資は、原則として事業キャッシュフローにて賄う
- **D/Eレシオ 1倍以下を堅持**

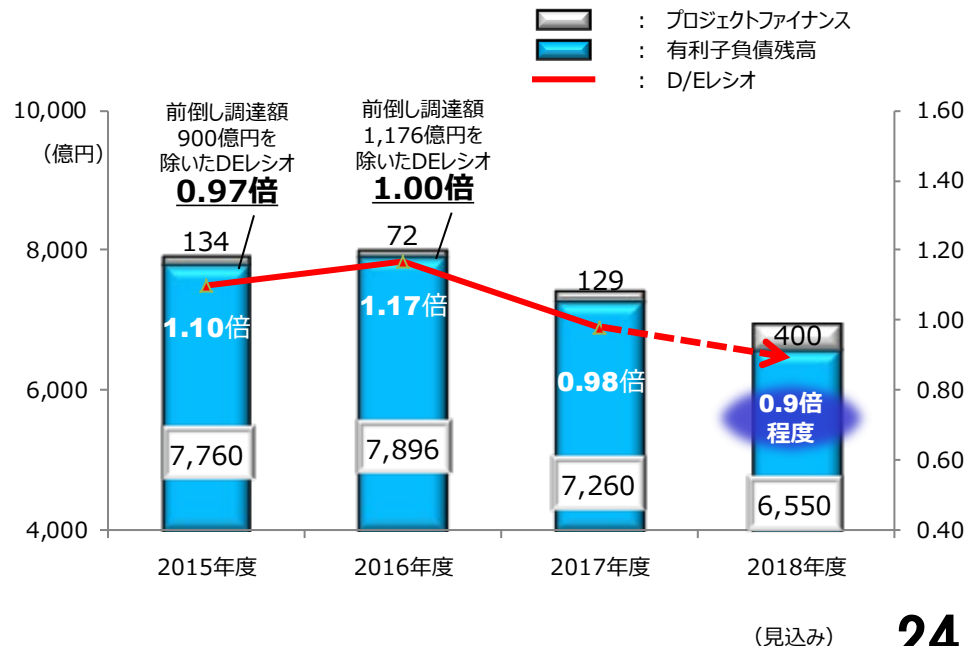
キャッシュ対策

- 財務規律を維持しながら着実に成長投資を実施すべく、**1,000億円規模のキャッシュ対策**を実施中
- ✓ 16~18年度実施済みキャッシュ対策
 運転資金改善190億円、資産・事業売却910億円等
 合計 約1,100億円

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》





4. 参考情報



ECO WAY

【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2017年度	2018年度 (前回見通し)	2018年度 (今回見通し)	差異
	実績	年度 ①	年度 ②	対前回 ②-①
営業キャッシュフロー	1,918	400	550	+150
投資キャッシュフロー	△1,607	△700	△300	+400
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	311	△300	250	+550
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	292	△400	150	+550
有利子負債残高※	7,260	6,800	6,550	△250

※有利子負債残高は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない



ECO WAY

【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 見通し
設備投資<計上>	1,099	1,602	1,286	1,500
対減価償却費	116%	167%	126%	150%

設備投資<支払い>	991	1,389	1,366	1,500
対減価償却費	105%	144%	134%	150%

減価償却費	948	962	1,020	1,000
-------	-----	-----	-------	--------------



ECOWAY

【財務指標】

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 見通し
RO S ※1	1.6%	△1.1%	3.8%	1.3%
1株当たり当期純利益 ※2	△59.34円	△63.54円	174.43円	96.60円
D / E レシオ ※3	※4 1.10倍	※5 1.17倍	0.98倍	0.9倍程度
RO A ※6	1.3%	△0.8%	3.1%	1.1%
RO E ※7	△2.9%	△3.4%	8.9%	4.7%

※1：売上高経常利益率

※2：当社は2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。

2015年度以前も株式併合を前提として算定

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本（15年度は株主資本）

※4：2016年度分借入金の前倒し調達（900億円）含む

前倒し調達除く2015年度D/Eレシオ：0.97倍

※5：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む

前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2017年度3Q累計 ⇒ 2018年度3Q累計)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計
経常損益	184	14	199	△17	48	31

△167

増益要因			減益要因		
総コスト削減	+	5	生産・出荷	△	15
在庫評価影響※	+	20	原料価格	△	100
			為替影響	△	20
			連結子会社・持分法	△	15
			その他	△	42
合計	+	25	合計	△	192

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2017年度 ⇒ 2018年度)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	184	△10	173	△17	47	30

△143

増益要因			減益要因	
生産・出荷	+	135	原料価格	△ 200
総コスト削減	+	35	在庫評価影響※	△ 35
連結子会社・持分法 為替影響	+	10	その他	△ 88
	±	0		
合計	+	180	合計	△ 323

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



ECO WAY

鉄鋼 差異内訳 (2018年度 前回見通し ⇒ 今回見通し)

(単位：億円)

	2018年度 (前回見通し)			2018年度 (今回見通し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△17	47	30	△17	47	30

±0

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	10	原料価格	△	35
総コスト削減	+	10	為替影響	△	10
連結子会社・持分法	+	5	その他	△	5
在庫評価影響※	+	25			
合計	+	50	合計	△	50

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



ECOWAY

鉄鋼 差異内訳 (2018年度 上期 ⇒ 下期)

(単位：億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	184	△10	173	△17	47	30

+64

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ 115	原料価格	△ 45
総コスト削減	+ 15	為替影響	△ 20
在庫評価影響※	+ 45	その他	△ 45
連結子会社・持分法	± 0		
合計	+ 175	合計	△ 110

※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



ECOWAY

製品の一部に対する不適切行為に関する再発防止策の徹底

当社グループにおける不適切行為に関しまして、お客様、お取引先様、株主様そのほか多数の皆様にご迷惑をお掛けしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

今回の品質問題に対する当社の責任を果たし、再び「信頼」していただける会社に生まれ変わるために、私共は、「ものづくりの原点」に立ち返り、確かな品質こそが「信頼」の核心であることを改めて心に刻み、不退転の決意を持って再発防止に努めてまいります。

再発防止策の全容

I.ガバナンス面
「品質ガバナンスの構築」

II.マネジメント面
「品質マネジメントの徹底」

III.プロセス面
「品質管理プロセスの強化」

社長をリーダーとする「信頼回復プロジェクト」により具体的な活動を推進

外部品質監督委員会によるモニタリングや協議

進捗状況を定期的に取締役会へ報告

再発防止策の進捗状況については、以下をご参照下さい。

<http://www.kobelco.co.jp/progress/relapse-prevention/index.html>



ECO WAY

安全性検証の進捗状況

過去1年分を対象とした当社グループの自主点検及び外部調査委員会による調査の結果、検出いたしました不適合製品を納入したお客様、また、直接の納入先以外のお客様の製品において、即時使用を停止する、または、直ちに製品を回収することが必要であると判明した事案は現時点において確認されておりません。

(2018年5月18日現在)

大分類	会社名	部材	主な用途	2017年10月26日公表		外部調査委員会設置 (2017年10月26日)以降	
				お客様数	安全性検証	お客様数	安全性検証
アル ミ・銅	(株) 神戸製鋼所 アルミ・銅事業部門	アルミ板	缶材,自動車	57	57	7	7
		アルミ鋳鍛造部品	航空機,鉄道車両	67	67	4	4
		アルミ押出品	自動車,鉄道車両	34	34	-	-
		銅板	半導体,端子	38	38	2	2
	(株) コベルコマテリアル銅管	銅管	空調	23	23	88	88
	神鋼メタルプロダクツ (株)	銅合金管モールド	電機,製鉄機械	176	176	29	28
	神鋼アルミ線材 (株) Kobelco & Materials Copper Tube (M) Sdn. Bhd. Kobelco & Materials Copper Tube (Thailand) Co., Ltd. 蘇州神鋼電子材料有限公司	銅管,銅板条,アルミ線材	空調/端子	36	36	-	-
真岡総合サービス (株)	アルミ板	材料試作	-	-	1	1	
その他	(株) コベルコ科研	ターゲット材,試作合金	FPD,光ディスク,試作合金	70	70	14	14
		腐食分析	腐食分析				
	(株) 神戸製鋼所 鉄鋼事業部門 鉄粉本部	鉄粉	焼結部品	1	1	-	-
	日本高周波鋼業 (株) 神鋼鋼線ステンレス (株) 江陰法爾勝杉田弾簧製線有限公司 神鋼新確弾簧鋼線 (佛山) 有限公司	鋼線 ステンレス線 熱処理	軸受 ばね	22	22	-	-
	神鋼鋼板加工 (株)	厚板加工	厚板加工品	1	1	-	-
	(株) カムス	熱処理	熱処理	-	-	1	1
	(株) 神戸製鋼所 機械事業部門	機械	産業機械,汎用圧縮機	-	-	10	10
	神鋼造機 (株)	機械	産業機械	-	-	3	3
	(株) 神鋼環境ソリューション	水分析	水分析	-	-	4	4
					525※	525	163※

※2017年10月26日公表のお客様525社と外部調査委員会設置以降にあらたに判明した不適切行為に係るお客様163社は、いずれものべ数です。



ECO WAY

【3本柱の事業成長戦略】2016-2020年度 中期計画の進捗状況
素材
I 輸送機軽量化への取組み

自動車軽量化戦略概要（2017年5月説明会資料をご参照下さい）

http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2017/files/170526.pdf
II 鉄鋼事業の収益力強化

 加古川製鉄所への上工程設備集約を完了
 追加収益改善策を順調に実行中

機械
I エネルギー・インフラ分野への取組み

機械事業拡大に向けた取組みを推進中

II 建設機械事業の収益力強化

中国ショベル事業再構築が概ね完了

<https://www.kobelcocm-global.com/jp/news/2018/180625.html>
電力
電力供給事業の安定収益化への取組み

 神戸3,4号機の建設工事の着手に必要な法的手続きをすべて完了し、工事開始
 既存・新規 プロジェクト概要（2017年1月説明会資料をご参照下さい）

http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2016/files/170111.pdf
中期計画終了まで2年を残し、計画内容をローリング中



ECOWAY

投資案件の進捗（自動車軽量化・建設機械事業）

中国における線材二次加工拠点の能力増強を決定（神鋼特殊鋼線（平湖）有限公司）

（2018年12月17日公表）

- 投資額 約9億円
- 生産能力 5,500トン/月（増強後）
- 導入設備および稼働時期
伸線機3機（2020年3月）
熱処理炉2基（2020年6月）
- 自動車用ボルト・ナット、軸受製品等に使用される「冷間圧造用ワイヤー」を部品メーカー様に供給することを目的に2007年に設立、2009年に本格操業を開始。今回の能力増強は5期目。
- 今後も更なる拡大が見込まれる高品質な特殊鋼線材のお客様ニーズにお応えする。

広島事業所五日市工場における建設機械生産能力増強を決定（コベルコ建機（株））

（2018年11月19日公表）

- 投資額 約20億円
- 生産能力（油圧ショベル）：
8,900台/年 → 10,500台/年
- 既存レイアウトの大幅な見直しによる、組立ラインおよび製品（フレーム）の生産能力増強に加え、効率的な組立工程導入、Smart Factoryの推進、作業安全性向上、職場環境改善まで多岐にわたり対応していく計画。
- 段階的な工事により2020年3月の完了を予定
- 幅広い生産メニューを持つ五日市工場の全面的な生産能力増強により、益々高まるグローバル市場の需要に確実に対応する。

米国自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強完了

（Kobelco Aluminum Automotive Products, LLC）

（2019年1月完了）

- 投資額 約58億円
- 生産能力 75万本/月 → 97万本/月
- 2005年の操業開始以来、北米のアルミ鍛造サスペンション市場でトップシェアを保持。
- 需要拡大に対応するため、生産設備の増強を順次進め、今回は7期目の増強投資。（2017年4月意思決定）



ECO WAY

エネルギー・インフラ分野への取り組み（神鋼環境ソリューション）

東京都八王子市から「（仮称）新館清掃施設整備及び運営事業」を受注

（2018年12月19日公表）

➤ 案件概要

✓ 事業内容：

八王子市から排出されるごみの焼却施設(流動床式ガス化燃焼炉)の設計・建設、運営・維持管理業務、及び駐車場棟整備等

- ✓ 工期・履行期間： 整備工事（設計・建設） 2018年12月から2022年9月まで
 運営業務 2022年10月から2043年3月まで

✓ 契約金額： 258.9億円（消費税含まず）

✓ 契約者： 整備工事（設計・建設） 神鋼・大豊建設特定建設工事共同企業体
 運営業務 株式会社八王子環境サービス

✓ エネルギー回収施設の能力： 160トン/日（80トン/24h×2系列）



設備完成イメージ

➤ 特長

- ✓ 「流動床式ガス化燃焼炉」と「高温高圧ボイラ・タービン（6MPa×450℃）」の採用により、国内最高水準の高効率発電を実現（発電効率25.2%）
- ✓ 流動床の優れた気体燃焼技術及び炉内脱塩特性に高度な排ガス処理設備を組み合わせることで、ダイオキシン類、窒素酸化物、塩化水素等の発生を抑制し、環境負荷低減を実現
- ✓ 未酸化で資源価値の高い鉄・アルミを回収するとともに、焼却残渣・焼却飛灰をエコセメント化することにより、最終処分場負荷“ゼロ”を実現
- ✓ 人々が憩う多目的広場、緑地の整備により豊かな自然と市民の共生の場を創出
- ✓ 被災者への支援を考慮した専用スペース・備蓄品の確保により、災害時の支援拠点・避難場所としての機能を確保



ECO WAY

エネルギー・インフラ分野への取り組み（神鋼環境ソリューション）

英国で廃棄物処理プラント案件の基本設計、主要機器供給業務等を受注

（2018年11月7日公表）

- 案件名 Hooton Bio Power Project
- 契約先 Burmeister & Wain Scandinavian Contractor A/S (BWSC)
- 業務内容

都市ごみ等廃棄物処理発電プラント案件の基本設計、主要機器供給、据付・試運転指導員の派遣

- 処理能力 流動床式ガス化溶融炉 300 トン/日 x 2系列
- 建設エリア south of the Wirral, North West England



設備完成イメージ



- 英国Hooton Bio Power Ltdが、三井E&Sホールディングスの100%子会社であるデンマークのBWSCとEPC、および、O&M契約を結ぶとともに、処理システムとして神鋼環境ソリューションのガス化溶融炉プロセスを採用
- 神鋼環境ソリューションは、流動床式ガス化溶融炉技術を核とした廃棄物処理プラントの海外展開を推進中。本件は、海外4件目、英国では初めての受注。



ECO WAY

【素材】 輸送機軽量化への取組み

	案件	地域		時期
自動車	自動車用冷延ハイツ製造・販売会社 (鞍鋼神鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイツのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材(天津)有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年12月 量産開始
	高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産	-	プレス生産性に優れたホットスタンプ用冷延鋼板を開発、トヨタ自動車(株)プリウス向けのボディ骨格部品を受注、量産。	2016年 量産開始
	自動車ソリューションセンター新設	-	技術開発本部内に「自動車ソリューションセンター」を新設。全社自動車プロジェクト担当役員を新たに配置し、意思決定の迅速化と当社独自のソリューション提案力の強化を図る。	2017年4月 新設
	自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobe Aluminum Automotive Products, LLC)	米国	北米のアルミ鍛造サスペンションの更なる需要拡大に対応 日系自動車メーカーのみならず、米国自動車メーカー車種の採用拡大を見込む	2019年1月 増強完了
	Novelisとの韓国でのアルミ合弁会社の設立 (Ulsan Aluminum Ltd.)	韓国	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 アジアにおける母材の安定的な生産・供給能力を確保	2017年9月 設立
	真岡製造所におけるアルミパネル材製造設備の増強	日本	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 高品質のアルミパネル材を安定的に供給する体制を構築	2017年度中 建設着工 2020年1月 稼働開始予定
	北米における自動車用溶融亜鉛めっき超ハイツ生産設備の増設 (PRO-TEC Coating Company, LLC)	米国	北米における自動車用ハイツ鋼板の需要拡大に対応 溶融亜鉛めっきでも高加工性超ハイツの生産が北米で可能に	2019年7月 稼働開始予定
	加古川製鉄所における自動車用ハイツ鋼板の生産設備投資	日本	今後の自動車用超ハイツ鋼板の需要拡大、高強度化、高加工性ニーズに対応 日米での高加工性超ハイツ鋼板の同時生産を実現	2021年2月 稼働開始予定
	異種金属接合用ロボットシステムの共同開発	-	神戸製鋼が考案した、超ハイツ鋼板とアルミを接合できる異種金属接続法「エレメントアークスポット溶接法(EASW)」と、ファナック(株)の持つロボット、エンジニアリング、およびセンサー技術を活用したロボットシステムを開発、実用化を目指す。	
	自動車向けアルミ押出材製造設備の増強 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国における燃費規制強化とアルミ押出・加工品の需要に対応	2018年8月 建設着工 2020年3月 量産開始予定
	中国における線材二次加工拠点の能力増強	中国	今後も拡大が見込まれる高品質な特殊鋼線材のニーズに応えるため、5期目の能力増強を実施	2020年3月 伸線機稼働開始予定 2020年6月 熱処理炉稼働開始予定



ECO WAY

【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	—	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	米国向け水素ステーション用All in oneコンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始	米国	米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器、ディスプレイをセットにした「HyAC mini-A」の販売を開始。海外水素ステーション向けに水素圧縮機等を販売するのは日本企業では初。	2017年2月 販売開始
	非汎用圧縮機用 大型試運転設備の完成	日本	世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ圧縮機市場への参入条件が整う。特に、当社優位性のあるアジア市場への取り組みに注力。	2017年4月 設備完成
	非汎用圧縮機事業 フィリピン新会社設立 (Kobelco Machinery Philippines Inc.)	フィリピン	指導員派遣機能とエンジニアリング機能を統合した新会社を設立。非圧縮機事業のグローバル展開を加速させるとともに、「SVの増強」と「エンジニアリング業務の最大効率化」を図る。	2017年2月 設立 2017年4月 営業開始
産業機械	等方圧加圧装置世界トップメーカーQuintus Technologies ABの買収	スウェーデン	航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカーであるQuintus社を買収。産業機械事業の高収益化に向け、IP装置メニューを強化。	2017年4月 買収
建設機械	五日市工場における建設機械生産能力の増強	日本	高まるグローバル市場の需要に対応するため、マザー工場であり、幅広い生産メニューを持つ五日市工場の全面的な生産能力を増強する。	2020年3月 増強完了予定
エンジニアリング	MIDREX直接還元鉄プラントの新規受注	アルジェリア	世界最大クラスとなる年産能力250万トン 同国産業の発展に貢献	2016年6月 受注 2018年11月 生産開始
	英国における廃棄物処理プラント案件の基本設計、主要機器供給業務等を受注	英国	都市ごみ等廃棄物処理発電プラント案件の基本設計、主要機器（ガス化炉・溶融炉・ボイラ等）供給、および、据付・試運転指導員の派遣業務を受注。海外4件目、英国では初めての受注。	2018年11月 受注
	東京都八王子市から「（仮称）新館清掃施設整備及び運営事業」を受注	日本	大幅に性能を向上させた次世代型の流動床式ガス化燃焼炉を採用。施設のコンパクト化や、発電量の最大化、発電の安定化、環境負荷の低減に貢献。	2018年12月 受注 2018年～2022年 設計・建設 2022年～2043年 運営業務



ECO WAY

【電力】 電力供給事業の安定収益化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
電力	神戸発電所 1,2号機 (株)コベルコパワー神戸	日本	2002年稼働の微粉炭火力超臨界圧発電設備。現行契約満了にあたり、契約を延長。 発電規模：140万kW（70万kW×2）	2002年4月 1号機操業開始 2004年4月 2号機操業開始 【延長契約期間】 1号機：2017年4月～ 2号機：2019年4月～
	真岡発電所 1,2号機 (株)コベルコパワー真岡	日本	国内初の本格的な内陸型発電所として国内最高レベルの効率での発電、都市ガス燃料のガスタービン・コンバインドサイクル設備。 発電規模：124.8万kW（62.4万kW×2基）	2016年6月 建設開始 2019年後半 1号機稼働予定 2020年前半 2号機稼働予定
	神戸発電所 3,4号機 (株)コベルコパワー神戸第二	日本	国が定めた「現時点で利用可能な最良の技術標準（BAT）」に準拠した最新鋭の発電設備（超々臨界圧発電（USC）方式）、省エネルギー法にて示された平均発電効率の基準についても、確実に遵守する計画 発電規模：130万kW（65万kW×2基）	2018年10月 建設開始 2021年度 3号機稼働予定 2022年度 4号機稼働予定



ECOWAY

企業理念

【KOBELCOの3つの約束】

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

【KOBELCOの6つの誓い】

1. 高い倫理観とプロ意識の徹底
2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献

「品質憲章」

KOBELCOグループは、製品、サービスにおいて「信頼される品質」を提供するために法令、公的規格ならびにお客様と取り決めた仕様を遵守し、品質向上に向けてたゆまぬ努力を続けてまいります。

3. 働きやすい職場環境の実現
4. 地域社会との共生
5. 環境への貢献
6. ステークホルダーの尊重



将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまいう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化